

猛暑 酷暑という呼称もあたり前のよう  
な毎日だった今年の夏も夢のように過ぎ去  
りました。訪れる秋のお彼岸は、穏やかな  
季節の幕開けでもあります。

生死事大 無常迅速  
各宜醒覚 慎勿放逸

時は常に流れ、ゆるぎなく思える大地  
山河も、目に見えない変化を刻一刻と遂げ  
ています。

「二度ともどらない時を、大切に過ごしな  
さい。そして、早く仏の教えに目覚め」安  
らいだ心、即ち信心を持ちなさい」という  
ことが、寺の本堂にある木板に書かれてい  
ます。



親にとつては長く、子供にとつては短い  
夏休みも終わり、御家庭も落ち着きを取り  
もどされた頃かと思えます。

を揃えた上で、修行しようと思つてはいけ  
ません。

お袈裟や応量器などの道具が足りなくても  
一方で死ぬ日は刻々と近づいているのです  
から、道具が揃うのを待っているうちに、  
一生をむなしく過ごすことになりかねない  
のです」と説明されました。

「正法眼蔵随聞記」には、「今を大事にす  
べきこと」が繰り返し示されていますから、  
道元禅師様が、今という一時を、どれほど  
重視していたかが想像できます。

どんなに高邁な理論を展開しても、実践  
が伴っていないくは、何にもなりません。  
仏道修行にしても勉強にしても、又日常生  
活の一つ一つの営みにしても、今という時  
を大切にすることが基本となるのです。

末娘がまだ幼かった頃、明日から学校と  
いう日になつて、算数のドリルを一冊やつ  
ていなかったことに気づき、朝から母親を  
巻き込んで、ウーン、ウーンとうなりなが  
ら宿題をやつていたことがありました。  
「夏休み中に、なぜ計画的にやらなかった  
のか」と、休憩時間毎に、母親に叱られて  
いましたが、子供ばかり注意することは出  
来ません。私達も、なすべきことを先送り  
したために、言い訳や後悔をすることが少  
なくないはずだからです。

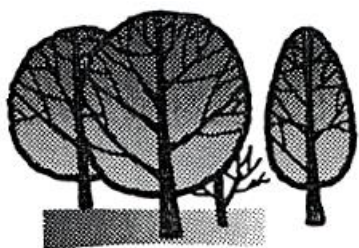
道元禅師様は、

「仏道を学ぶ人は、なすべきことを先送り  
してはいけません。今のこの時を、ぼんや  
りと過ごさないで、その日、その日、その  
時、その時に全力投球をしなくてはいいけ  
ないのです」と戒めておられます。  
それは、人の世が無常だからです。

「仏道を行ずるためのお袈裟や応量器など

お彼岸を迎える心

仏教には「十界互具」という言葉があり  
ます。地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天  
上、声聞、縁覚、菩薩、仏の十の心の全て  
を私の心の中に持つていて、一瞬にして、  
仏の心を出すこともでき  
れば、鬼の心をおどり出  
させることもできるとい  
うのです。「ハイ」とい  
う返事の一つでも、「は  
い」という明るい気持ち  
のよい返事がかえつてく  
ると、こちらまで心やさしい気持ちでいら  
れます。しかし面倒くさいナア、うるさい  
ナという感じで「ハイハイ」などという返  
事もどつてくると「もう、いいヨ」と腹  
が立ったり、淋しく思ったり、心が波立つ  
てきます。このように条件次第で、何でも  
飛び出させる材料のすべてをととのえてい



る私であり、お互いであることを忘れてはいけません。そこで、もう一つ大切なことは、相手に変わることを求めず、私が変わらせてもらいましょうという、限らない誓願の中に生きるということでしょう。

たつた一度の人生、限りなく鬼を引つ張り出し合つてゆく悪循環の人生でなく、周りの全ての人や物に感謝し、仏を引つ張り出し合い、おだやかな安心の人生へと心がけてゆきたいものです。

一口伝導板

○風のごと

月のごとくに

往きゆいて

一期一会の

いのち尊し



○功德とは くだくだいわずにするが徳

多くの方々が、自分のお寺に少しでも多くかかわっていかうというお気持ちのあらわれと、嬉しく思いました。

御協力頂きました方々の御名前を御報告致し、お礼とかえさせていただきます。

(敬称略・順不同)

一寸木勝男、一寸木誠一、高橋光成、小林誠

篠崎勇、小宅トシ子、杉本光昭、高橋信一、

小泉直人、一寸木将都、小泉操、一寸木操、

鈴木郁子、一寸木昭司、一寸木健一、

一寸木和子、磯崎繁幸、磯崎恵美子、

磯崎スエ子、一寸木正治、小泉一義、

磯崎美範、下田一路司、勝又晴美、磯崎泰美、

鈴木直幸、杉本哲、小野雄三、内田清高、

一寸木治久、杉山洋二、杉山孝史、

磯崎正史、磯崎貴子、一寸木政之、谷内茂樹、

一寸木雅明、小石川啓輔、下田理恵子、

大館昭夫、小野清、小泉スズ江、小泉正章、

山崎憲昌

○心暗きときは

すなはち遇ふところ

ことごとく禍なり

眼明らかなれば

途に触れて 皆宝なり

お寺から

○ありがとうございました。

― 勤労奉仕 ―

お盆を迎えるための準備の一環として、境内、墓地の清掃を、御都合のつく有志の方々に、今年は八月四日の日曜朝八時より行いました。

お寺の行事を欠席することは申し訳ないと気になさつて、お寺におわびのお電話を入られた欠席者もおられました。人々御仕事や旅行、諸般の御事情が御ありのことです。御無理のない所での御奉仕をおねがいしていますとお話し申しました。

○ザル菊鑑賞

― 見事ですよ ―

今年も、会員さんが愛情たつぷりに育てたザル菊が、当寺の境内に所狭しと並びます。

講師の鈴木三郎邸のザル菊園を観た後に当寺のザル菊をのぞいてみられる方も年々ふえ、「楽しみにしています」とか「今年も行きます」などのお声もきかれ、なかなかの賑わいを見せてくれます。

本年の表彰式は十一月

三日に執り行われます。

住職賞はじめ、各種のスポーツサーからのごほうび付き表彰式です。是非、お立ち寄り下さい。









